はらじゅくかわら版

独立行政法人 国立病院機構

横浜医療センターの理念

私たちは、患者さまの人権を尊重し、思いやりの心をもって安全で納得していただける患者様中心の医療を目指します。

OHAMAN 私たちは、急性期の地域医療を基盤として質の高い総合的な専門医療を提供すると共に、関係医療機関と密接な連携をもつ<mark>地域完結型医療</mark>を目指します。

私たちは、健全な病院経営を心がけ、患者様がより良い医療が受けられ、 地域で選ばれる病院になるべく日々努力していきます。



2007年元旦、三浦半島を望む初日の出を江ノ島東浜海岸にて撮影。(この一年真っ赤に燃える太陽に力強い更なる飛躍の年に、そして平和に!合掌)

副ボイ	ラー技士長	和田	明

第15号 目次

年頭挨拶 ・・・・・・・・・・・	看護部だより・・・・・・・・・10
就任挨拶 · · · · · · · · · · · · · · · 2	看護部新年の抱負/医師の人事異動・・・・11
地域医療連携病診連携施設紹介・・・・・・・・・・3地域医療支援病院に向けて・・・・・・・4登録医大会・・・・・・・・・・・5お知らせコーナー	行事等紹介 治験研修会/院内感染対策講習会・・・・12 クリスマスキャンドルサービス/クリスマスの集い・13 患者数の動向/編集後記・・・・・・・14 外来担当医表・・・・・・・・・・15
医療安全管理室・・・・・・・・・・・・・・6 栄養管理チーム (NST) 活動・・・・・・フ 検討会・研究会の開催・・・・・・・フ シリーズ 気になる病気/冬の皮膚病・・・・・・・8 職場紹介 ー 精神科・心療内科/外科・・・9	発行月: 平成19年1月発行: 独立行政法人国立病院機構 横浜医療センター 広報委員会発行責任者: 高橋 俊毅住所: 横浜市戸塚区原宿3-60-2電話: 045-851-2621FAX: 045-851-3902URL: http://www.hosp.go.jp/~yokoham/

年頭あいさつ



院長 高橋 俊毅

明けましておめでとうございます。このたび、横浜市より南西部における地域中核病院の指定を受けました。病院の理念として「患者様中心の医療」、医療連携を目指す「地域完結型医療」、そして「地域で選ばれる病院」を掲げて頑張ってきたことが認められ、喜びと同時に責任の重さを実感しております。

当センターの当面の目標は、医療をより機能的に提供するために、平成21年12月に竣工、翌年3月から510床の新病院として全面建て替えを行います。さらに医療サービス体制として、より高いレベルで提供していくためにERチームを含む三次救急の機能を果たし、地域の住民や医療機関の期待に応えるべく救命救急センターを核とした地域で選ばれる病院となるべく努力します。

横浜市南西部地域中核病院の指定では、24時間365日2次救急(内科・外科)以上を提供する ものとしての救命救急センター、平成16年4月に指定された小児救急拠点病院の実績と昨年か らの初期救急(夜間帯)基幹病院、さらに母児2次救急産科病院や災害医療拠点病院などの実 績と精神科患者の身体合併症診療などへの取り組みなどが認められたものと考えます。

昨年は日本病院機能評価機構の認定を受けるとともに、急性期病院に対する診断群包括払い制度であるDPC対象病院へと移行しました。また逆紹介を励行し、地域の医療機関からのご紹介の増加、医療機器の共同利用や医療従事者の研修会、登録医との共同診療のための開放病床の指定など、地域医療連携室を中心に医療連携に努力してきました。これらの積み上げにより本年中には地域医療支援病院の指定を申請したいと思っています。

4月からは麻酔科の定員配置と看護師の増員、後期研修医(専修医)の増員で手術室機能の大幅な拡充を果たし、救急医療に対応できる手術件数の増加を見込んでおります。また神経内科と脳神経外科医師の増員により脳卒中ケアユニットの編成を目指す予定であり、高機能MRIの設置と64列CTの増設など、地域の中核病院として行政や他の医療機関との相互連携を推進して、地域の皆様が安心かつ適切な医療を受けられる医療環境を目指して努力していきます。

その他にも、入院外来比率1:1.5の入院時医学管理加算の施設基準をも目指しております。急性期病院として、外来は地域の先生方にお願いし、我々は入院治療と救急を含む新患外来での密度の高い診療と専門外来に重点を置きます。これはかかりつけ医からの要望や急変時の検査などに即応し、迅速に入院していただける体制づくり目指すものです。中長期的にはがん診療連携拠点病院、緩和ケアを目指していきます。

本年もどうぞご指導、ご支援をお願い申し上げます。

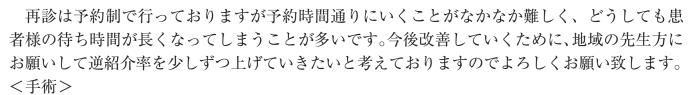
就任挨拶

この度、平成18年12月1日より眼科・設楽部長から清水康平と岡 部智子の2人体制に変更になりました。

私は、東邦大学医療センター大森病院時代に松橋教授と杤久保教 授の指導のもと、白内障・糖尿病網膜症・網膜剥離を中心に治療に 携わってまいりました。また、私は大学時代医局長をしていたこと で、総合病院と地域の先生方との密な連携の大切さを実感しており ますが、まだまだ至らない点も多いと思いますので、治療またはその 他のどんなことでも構いませんがご指導いただければと思います。

<診療日の案内>

初診は月~木までの午前8:30~10:00まで(金曜日は午前から 手術があるため9:30まで)受付しております。また、緊急性ある疾患等の場合は上記時間外 でも可能ですが、その際は電話での御一報をいただければ幸いです。



火曜日午後と金曜日午前10:00からで、主に白内障を中心に施行しております。設備も整っ ているので今後網膜剥離・硝子体手術も可能な限り施行していきたいと考えております。 くおわりに>

当院では、患者様の立場にたった納得のいく医療を地域の方々に提供できるように日々精進 していきたいと考えています。そのためには、地域の先生方の御紹介が大切になります。検査 のみまたは糖尿病の精査等だけでも構いませんのでご紹介の程よろしくお願い致します。



眼科部長 清水 康平

看護師募集中

募集職種:非常勤看護師

勤務時間:4月より週32時間

(勤務日・時間応相談)

給 与: 時給1,520円

(月額約190,000円)

連絡 先:管理課給与係 篠原

電話番号:045-851-2621



地域医療連携

病診連携施設紹介

佐藤胃腸科内科クリニック 鳥が丘診療所

診療科目:胃腸科・内科・小児科・外科



左から二番目 佐藤 卓彌院長

当診療所はJR戸塚駅から横浜新道を隔てて西北に当たり、道路戸塚さちが丘線に面した所にあります。 付近は閑静な住宅地で、道路を隔てて消防署、郵便局があり、長後街道沿いの地下鉄踊場駅から徒歩約10 分の所です。

私共は当初和泉町(現在の泉区)で診療を始め7年後に鳥が丘の住宅地開発に従って診療所と自宅を建設しました。このため現在も地下鉄立場駅前に和泉診療所があり、午前・午後で家内と交代する変則診療を行っております。私が胃腸科・外科、家内が内科・小児科を担当しております。

胃腸科は、胃X線透視、胃内視鏡、上腹部超音波エコーを主体に上部消化管診断を主体に診療を行っています。癌を如何に早期発見し、早期治療に送れるかを常に心掛けております。また横浜市の基本健診・がん検診を主体に健診にも力をいれており、戸塚区医師会検診判定会に参加して、病的所見の見落としを防ぐため撮影したX線写真のダブルチェックを行っております。

横浜医療センターには、私共の診療所で手に余る重症患者をいつも快く受け入れていただき感謝申し上げます。地域の中核病院として病診連携に努められ、地域住民の健康維持に貢献されていること、各科の先生方の絶え間ない真摯なご努力の賜物、深く感謝申し上げます。私も4年前から戸塚区医師会をあずかる身となり前院長の三木先生、現院長高橋先生とお付き合いさせていただきましたが、お二方とも病診連携は勿論、地域医療の充実に積極的で着々実をあげておられるのは心強い限りです。病院建物のリニューアル工事も始まったとのこと、名実ともに中核病院として一層の充実を果たされる日を楽しみにしております。



鳥が丘診療所 院長 佐藤 卓彌

〒244-0001 戸塚区鳥が丘3-25

TEL 045-864-2700 FAX 045-864-3711

診療時間 月·火·水·金·土 9:00~11:30 14:00~17:00

休 診 日:日・祝日・木

診療科目:胃腸科・内科・小児科・外科

和泉診療所 院長 佐藤 知子

〒245-0015 泉区中田西1-1-27

TEL 045-802-3443 FAX 045-804-7726

診療時間 月·火·水·金·土 9:00~12:00 14:00~17:00

休 診 日:日・祝日・木

診療科目:胃腸科・内科・小児科・外科

地域医療連携室から

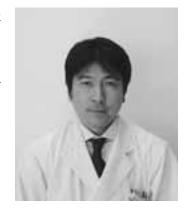
地域医療支援病院に向けて

第2回 横浜医療センターの救急医療

地域医療連携室長・統括診療部長 宇治原 誠

当院横浜医療センターが地域医療支援病院として地域の住民の皆様の健康増進に貢献するには、急病の患者さんに対する急性期医療と、専門的な検査・指導・手術などを行う専門医療を担当し、それ以外の医療の役割は他の医療機関に担っていただいて、地域の医療の機能分担を推進することが必要であることは前号で説明しました。今回は、急性期医療、つまり救急医療について説明します。

救急医療では、患者さんの状態を一次救急・二次救急・三次救急に 分けます。一次救急患者は、外来で治療が可能な状態の患者さん、二 次救急患者は入院治療を要する患者さん、三次救急患者とは極めて専 門的な治療を必要とする救急患者です。この一次、二次、三次救急の



ことを具体的に、患者さんの視点にたって説明してみましょう。たとえば熱と咳と痰がでていた方が、38.5度の高い熱がでて呼吸も苦しくなったとします。この時点ではまず、一次救急患者として、お近くの医院やクリニックや、夜間、休日は夜間休日急病センターに受診します。そこで風邪や気管支炎や軽い肺炎と診断されれば入院は必要ありませんので、内服薬や注射をして帰宅します。しかし、このとき、重い肺炎が疑われる場合は、医院や休日夜間急病センターから、二次救急指定病院に紹介され、入院となります。さらに専門的な治療が必要な場合は三次救急指定病院に紹介となります。医院から直接三次救急指定病院に紹介になることもあります。この救急診療の制度は地域住民の皆様の健康に極めて重要なもので、救急医療が本当に必要な患者さんが正しく迅速な治療を受けることができるのです。

当院の救急医療機能は、小児救急を含む二次救急医療、周産期二次救急医療、救命救急センター設置による三次救急医療です。グラフは当院の救急患者診療数の推移です。黒棒が救急車搬送による患者数、白棒が救急車以外の救急患者数です。どちらも地域の医療機関からご紹介をいただいて診療した患者さんが多くを占めています。年々救急患者数が増加しているのがお分かりいただけると思います。

当院は地域住民の皆様の健康増進という使命を果たすために、地域医療支援病院の役割のひとつである救急診療でも貢献したいと思います。

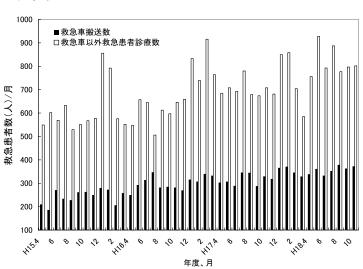


表 横浜医療センターの救急患者診療数の推移 (平成15年度から)

地域医療連携

第1回登録医大会開催される

地域医療連携係長・医事専門職 泉 厚彦

当院では、地域の方が地域で不安なく日常生活を過ごすことができるよう、病気をはじめ健康のことを気軽に相談できる「かかりつけ医」を持つことを勧めています。同時にかかりつけの先生方と当院との医療連携を緊密にすることにより、それぞれが特徴を生かした診療にあたることで、地域の方が安心して暮らせる地域を作りたいと考えています。そのための一つの方法として、平成15年から、地域の先生方に「連携医」として診療機能や医院の特色を公開・登録していただき、それを「連携ファイル」と称し、現在も紹介・逆紹介などに利用させていただいております。

この度、当院は「地域医療支援病院」を目指すにあたり、地域の先生方に改めて「登録医」として登録をお願いすることになりました。その結果、平成18年12月現在、近隣228施設から312名の先生方に登録医として登録していただくことができました。本当に多くの先生方のご協力をいただき感謝に堪えません。

以上の経緯を踏まえまして、平成18年12月4日(月)、日ごろ医療連携でお世話になっている地域の先生方をお招きし、「戸塚崎陽軒」におきまして、「第1回登録医大会」を開催いたしました。当日は戸塚区医師会長をはじめとしまして45名の先生方に足をお運びいただきました。また、当院から幹部職員、各診療科部長、看護師長等56名が参加し、合わせて100名余の出席という盛大な会となりました。

当院千田事務部長の進行による記念すべき「第1回登録医大会」の第1部は、高橋院長の開会挨拶に始まり、戸塚区医師会長・佐藤先生にご挨拶をいただき、当院市川脳神経外科部長による講演「脳卒中の急性期治療」と続き、最後は「地域医療支援病院に向けて」と題した宇治原統括診療部長からの報告がありました。

引き続き同会場で行われた第2部は、戸塚区歯科医師会長・小島先生に乾杯の音頭をとっていただき、立食での懇親会でした。懇親会の間、会場正面のスクリーンに当院診療各科医師全員の顔写真、プロフィールを10秒間隔で流し紹介させていただきました。まさに顔の見える医療連携になったのではないかと思います。アルコールも手伝い和気あいあいのうちに懇親会も無事終了し、親交を深めることができました。

地域の先生方には引き続き、今後ともご協力の程よろしくお願い申し上げます。





お知らせコーナー

医療安全管理室より

医療安全管理係長 小林洋子

平成18年度第2回医療安全月間のイベントとして院外講演会を11月18日に催しました。

当院職員へ向けての講演会で、日頃から患者さんとどのように向き合えば気持ちが通じ合えるのか、という観点でCNS話し方研究所の八木康子主任教授に講演をして頂きました。

職員131名が参加し「これまで自分の気持ちばかり先に言っていた」「相手への印象を考えずに対応していた」など多くの感想が寄せられました。

また6月の安全週間に引続き「いろはカルタ標語大会」を実施しました。各職場で日頃の業務を振り返り、医療安全にむけた標語を作成し展示しました。良い作品には患者さんからのご協力により、沢山のシールで票を頂きました。

367票:放射線科「繰り返す 慣れた作業に 潜むミス」

245票:西4階病棟(内科・循環器他)「さあ確認! 名乗って下さい あなたの名前」

171票:西2階病棟(小児科・歯科口腔他)「ていねいに そのひと手間を たいせつに」

以上が上位3部署の作品でした。今後はこの標語が、作成しただけで終わりになってしまわないよう 実践して行きたいと思います



栄養管理チーム(NST)活動

NST活動とは…

主任栄養士 青木尚子

当院では医師、看護師、臨床検査技師、栄養士がチームを組んで、入院中の患者さんの栄養状態の改善に向けて、活動をしています。NST(Nutrition Support Team)という栄養サポートチームの名前を聞いたことがあるでしょうか?活動内容としては主に、低栄養状態にある方や今後低栄養に陥る可能性のある方を対象に、「何が問題で栄養状態が悪いのか、悪くなりそうなのか」「どのような対策を取れば改善・予防できるのか」各職種の立場から検討し、改善に向けて取り組むことを日々行っています。栄養士の立場からは、患者さんそれぞれの体格・活動状況・侵襲具合を考慮し、必要エネルギーの設定をします。実際必要量が摂取できずに栄養状態が不良となる場合が多いため、どのような形で必要量を補給していくかが課題となり、週に一度のカンファレンスにて各職種のメンバーで検討されます。経口からの摂取が可能であれば、「嗜好に合わせた食事」「食事の形態の調整」「エネルギーやミ

ネラル補給のための付加食品」等を検討します。経口での摂取が不可能な場合や不十分な場合は、胃へ直接栄養剤を送り込む方法や、静脈からの栄養補給(点滴)を検討します。また、機能的に経口からの摂取が困難な場合、月に2回摂食・嚥下回診も実施しており、経口から食事摂取が可能になるように「嚥下機能の評価」「嚥下訓練の計画」が立てられます。実際これらの活動によって、食事摂取量

の増加、食形態のレベルアップ等が図られ、栄養状態改善により褥瘡治癒や疾患の改善、身体活動能力の向上につながっています。抗がん剤の副作用による食欲低下などにも、食事摂取量確保に向けて検討を行っています。様々な背景が食欲低下、摂取量低下の原因となっています。できるだけ早い段階で低栄養のリスクを発見し、予防していくことが改善の近道になってきます。食欲がない、食事摂取量が低下している、体重の急激な減少など、変化が見られたときには、NSTが改善に向け取り組みます。主治医や看護師、栄養士等身近なスタッフにご相談下さい。



摂食・嚥下回診

横浜医療センター症例検討会・研究会開催のお知らせ

西横浜整形外科症例検討会

開催日時 毎月第3木曜日 午後7時~

開催場所 当院大会議室

連 絡 先 日塔整形外科部長 045-851-2621 (代)

横浜藤沢消化器疾患研究会

開催日時 毎月第2月曜日 午後7時~

開催場所 当院大会議室

連絡 先 小松臨床研究部長・松島消化器科部長 045-851-2621 (代)

各症例検討会・研究会にご興味をお持ちの先生は、どなたでも参加を歓迎いたしますので、ご連絡下さい。

シリーズ

気になる病気

今回は、冬になると乳児が多く入院してくる2つの病気を取り上げてみました。

① RSウイルスによる細気管支炎

RSウイルスは幼児期以降のお子さんがかかっても、軽い鼻かぜ程度の症状しか起こしませんが、2歳以下の乳児がかかると喘息のような「ぜーぜー」が日に日に悪くなり、約50%が入院してしまう病気です。典型的な経過は、初めは鼻水、続いて咳が出現し、4~7日目には「ぜーぜー」して呼吸困難となり、ミルクも飲めなくなり入院してしまいます。その後は徐々に軽快し、概ね2週間以内で軽快します。残念ながら現在のところ予防接種はなく、乳児は人ごみを避けること、カゼ気味の兄弟を近づけないことで予防するしかないでしょう。ただし、未熟児で生まれたお子さんは重症化するので、秋・冬にはシナジス(予防接種ではありません)という注射で予防することが認められています。



小児科部長 鏑木 陽一

② ウイルス性胃腸炎 (ロタウイルス・ノロウイルス)

ロタウイルスによる胃腸炎は、別名「白色便性下痢症」とも呼ばれ、以前は「赤痢」に対して「白痢」などとも言われました。典型的な経過は、39度にもおよぶ高熱と嘔吐が1~2日続き、その後にひどい白色下痢が約1週間続きます。発熱が無いお子さんもいますが、痙攣を起こすお子さんもいます。下痢止めの薬を飲ませると、ウイルスが長く体内に残ってしまうので使用禁止で、必要なら整腸剤を使います。嘔吐がひどく水分が取れないと脱水となり入院してしまいますが、飲むたびに吐くようなら、最低2~3時間はおなかを休ませて、その後に乳児用のイオン飲料などを少しずつ飲ませましょう。「早く飲ませないと脱水になっちゃうわ。」と吐いた直後にあわてて水分を与えていると、更に吐いてかえってぐったりしてしまうことがよくあります。便の検査で診断は可能ですが、ウイルスに対する特効薬はありません。予防接種は開発中で、来年には治験の最終段階に入る予定です。

最後にこの冬話題のノロウイルスですが、症状はロタウイルスよりも軽く、入院することはあまりありません。 またかかる年齢もやや大きく大人もかかるのが特徴です。症状が軽く経過も短いのですが、伝染力が非常に強い、 つまりごく少量のウイルスを吸い込んだだけでもうつるので、社会的に大きな問題になりました。

ロタウイルスもノロウイルスもアルコール消毒は効きませんので、予防にはとにかく手洗いとうがいしかありません。

●●●冬の皮膚病●●●

皮膚科部長 坪井 廣美

冬季は外気の乾燥や暖房による室内の乾燥のため、皮脂欠乏症という状態が起こります。皮脂欠乏とは皮膚の最外層の角層に水分・脂質の貯留ができずに起こります。そのため田んぼのひび割れの様な状態になります。高齢の方は、角層の脂質及び天然保湿成分が減少し皮脂欠乏症を惹き起こしやすくなっています。皮脂欠乏はかゆみを伴うことが多く、掻爬により湿疹を生じます。予防法には、風呂に入る回数を減らす・タオル等で体を洗わずに手でやさしく洗う・石鹸の質にこだわる・市販されている保湿剤(ケラチナミン軟膏)を外用する等があげられます。

治らない時は副腎皮質ステロイド軟膏などの外用が必要です。 またダニ・ハウスダストにアレルギーを起こし、汗をかく部 位や刺激部位に湿疹を生ずるアトピー性皮膚炎という病気も ときに冬に増悪します。アトピー性皮膚炎の患者さんは、ア トピー皮膚という乾燥して鳥肌だった肌が特徴です。冬場、 皮膚が乾燥しバリアー機構が働かなくなることによって湿疹 が増悪します。個人の体質・年齢的な変化は、病気の根本的 治療を困難にしますが、日ごろの生活習慣で皮膚病の発症は 抑えられます。つるつる肌を目指し、乾燥する冬場を乗り切 りましょう。



筆者右から2番目







精神科・心療内科 精神科部長 武川 吉和 (たけかわ よしかず)

当院の精神科は、4人の医師、17人の病棟看護師、1人の専属外来看護 師、2人の看護助手、2人の臨床心理士(非常勤)、1人の精神科保健福 祉士(兼任)から成るチームです。精神科専用の外来棟と病棟を持ってい ます。病棟は半開放型で、保護室2室と個室3床を含む実質49床で運用し ています。日中入口の扉は開いており、大半の患者様は独りでの外出が許 可されています。近年当科は、総合病院で精神科病棟を有している稀少性 を活かそうと運営方法を改革中です。従来通り抑鬱状態の患者様の療養を 中心としながらも、入院の迅速化や院内の他科との診療連携(リエゾン)



筆者後列中央

に力を入れる共に、精神障碍に身体疾患を併発した患者様や、無痙攣式通電療法を希望されている患者様 を精神科の病院や診療所から受け入れています。今後は心理社会的な治療や専門外来、卒後研修プログラ ムなどの充実を図ってゆきたいと思っています。其の一方で、設備などの限界から、激しい興奮状態や躁 状態、治療拒否の強い幻覚妄想状態などの病像を呈している患者様や長期の入院療養が必要な患者様へは 対応できずにいます。又限られた人力を入院医療へ集約する為に、1月からは外来初診を予約優先・総枠 制へ変更すると共に、病状が安定或いは固定したと判断された患者様にはできるだけ精神科診療所などへ お移りいただくようお願いすることになる予定です。当院では心療内科は精神科の医師が兼任し、週2回 午後精神科外来で紹介された患者様のみを診ています。対象となるのは、①身体症状が前景に立っている ものの精神的な問題との関連が疑われる方を中心に、②当院女性外来から紹介された方、③認知症の早期 診断を希望されている方、④小児精神疾患が疑われている方、です。当院精神科・心療内科は、山栗の様 に(小粒だけどしっかり甘い)ありたいと思っています。今後共皆様の御協力をお願い致します。

外科 外科部長 関戸 仁(せきど ひとし)

外科は、消化器・一般外科2チーム、乳腺・甲状腺外科1チームの計 3チームで診療を行っています。消化器・一般外科は、食道癌、胃癌、 結腸・直腸癌、肝癌、膵癌、胆嚢癌・胆管癌と、すべての消化器癌を 診療し、胃潰瘍出血穿孔などの良性消化器疾患も診療しています。-般外科は、小児・成人の鼠径ヘルニア、急性虫垂炎、脂肪腫など皮膚 皮下腫瘍の一部を担当しています。乳腺・甲状腺は、すべての乳腺疾 患、甲状腺疾患を担当しています。



筆者前列右側

スタッフは、関戸 仁(弘前大、昭和58年卒)、土井 卓子(横浜市 大、昭和59年卒)、佐藤 靖郎(福島県医大、昭和63年卒)、松田 悟郎(筑波大、平成5年卒)、田辺美樹子 (山梨大、平成8年卒)、木村 準 (金沢大、平成15年卒)、徳久 元彦 (埼玉医大、平成16年卒) の7名です。

2006年1年間の主な手術件数(総数518件)は、開胸開腹食道切除再建1件、胃癌幽門側胃切除22件(腹腔 鏡下幽門側胃切除6件を含む)、胃癌胃全摘26件、結腸癌切除39件、直腸癌切除16件、肝癌肝切除10件、膵 頭十二指腸切除9件、胆嚢癌切除1件、虫垂切除26件、成人鼠径ヘルニア60件、小児鼠径ヘルニア6件、乳癌 切除 128件、甲状腺手術11件などでした。

外来では、乳癌化学療法を中心に外来化学療法を積極的に行い、毎月120件程度行っております。外来日 は、消化器一般外科が月・火・水のみ(木・金は急患のみ)、乳腺甲状腺が火・木(完全予約制)となって おり、近隣の先生方にはご不便をおかけしているかと思いますが、急患等出来るだけ対応させていただき ますので、お気軽にご連絡いただければ幸いです。

看護部だより



亥年におもう



看護部長 糸川 章子

新年あけましておめでとうございます。

昔から「一富士、二鷹、三茄子」を初夢に見ると縁起が良いとされています。最近はこの諺を口にする人や、信じる人は少ないのではないでしょうか。私は「一富士…」とは言いませんが「病院が10階建ての高層になって、24時間空調管理で、病床数と同数の看護師が勤務している。最上階の全有料個室は満室で晴天の日には、富士山が一望できる…」こんな初夢が見たいのです。

さて、施設は独立行政法人に変わって3年が過ぎ、この間最新機器や看護用品の整備等を通して考えると、いかに安定した病院経営が大事であるかを実感した日々でした。患者様の療養環境や職員の職場環境、看護学生の実習環境の面から2010年には近代的な新病院完成、という大きな目標に向かって皆さんと共に一丸となって活動してまいります。

一方当院の指命である急性期医療の現場は、24時間診療が施され、患者様の重症度や看護度はあがり、かつ、在院日数が急激に短縮されました。オーダリングが完全に整備されていないため、事務処理や重複業務もあり、ベットサイドでの看護に関わる時間が減少しています。患者様の反応を確かめながらゆとりをもって説明や指導が出来ていないことが、誤解や不満の原因になったり、看護師のやりがいや満足度にも影響していると感じます。また、看護の実際については嬉しいご意見を頂く反面、厳しいご指摘やご批判を頂く事例がありますので、まだまだ学習の必要性や患者様参加型の看護の提供には不備があると感じます。

平成19年度、看護職員は5名の増員が認められ292名の定数で運営していきます。4月には60名を越える新採用者の確保ができますので、ベットサイドケアの時間を多くできる配置を考えています。各看護単位の看護師長を軸に、引き続き「安全で良質の看護を提供する」ことを目標に取り組み、看護が専門職と認められ、自らも自分の仕事を誇れる看護が提供できるよう職員の指導や教育を充実してまいります。

当院には、専従の医療安全係長や教育担当看護師長・WOC(創傷・オストミー・失禁)看護認定看護師、専任の感染管理認定看護師やがん化学療法認定看護師などのスペシャリストがおります。看護の専門性を極めつつ、看護の質的向上にも関与してくれることを期待します。

亥年は12支の最後の干支です。猪にあやかり無鉄砲に走らず、当院の将来を見つつも、足元である「臨床の日々の看護を充実」していくことに全力を注ぎ、目標達成後は「終わりよければ全てよし」と、言える1年にしたいと思います。そして2008年の子年が「始めが肝心」の思いで引き継いで行けるように継承したいと思います。

看護部だより 平成19年の抱負



整形外科看護は 当病棟におまかせ!優 しさそえて、看護します。 今年もよろしくお願い します!



「安心と安全な急性期 医療 | をモットーに、心 の通う看護を提供します。



突然に起きる脳・ 神経疾患に対して、患 者・家族への入院の早期 から機能回復および自立 に向けた 温かい援助 を行います。



階級模看護師長

消化器科病棟として 専門性のある看護を目指 して努力していきます。



一期一会・・その 時々を大切にした看護や お産に病棟一同頑張って いきます。

会2.推炼模看護師長

西 2 階病棟は眼科 耳鼻科・小児科です。安 全で安心できる心暖まる 看護を提供します。

像人 像看護師長 循環器、心臓外 科の患者様を主に受け いれています。

> ハートのある看護を心 がけ、安心・安全な医 療を提供致します。

ARK有護師長

呼吸ケアの充実、地 域連携パスの見直しや糖 尿病療法指導士取得に向 けて頑張っていきます。



短期入院の患者様が 多い病棟ですが判りやす がけていきます。



手術をして元気に退 院される患者様の笑顔が 嬉しくて、毎日頑張って います。

令5階病棟看護師長

い説明、丁寧な対応を心



。多樣達看護師長

いつも、どんな時で も「看護の原点を忘れず にいたい」、心からの看 護をして行きます。

這護師長

安全に安心して手術 が受けられるよう心をこ めて看護します。



病棟連携、地域連 携、繋ぐ要で明るい笑顔 で前進します。



医療安全に関する職 員一人ひとりの意識を高 め安全文化の向上を目指 します。



看護の専門職と言わ れるのに相応しい看護職 員としてのスキルアップ を応援します。



医師の人事異動◆



(H18.10.2~H19.1.1)

	退		職	者	採	用	者
発令年月日	氏	名	職名	退職後の施設名	発令年月日	氏 名	職名
平成18年11月30日	下 村	貴 子	産婦人科医師	東京医科大学病院	平成18年12月1日	清 水 康 平	眼科部長
平成18年12月1日	設 樂	幸治	眼科部長	したら眼科クリニック(開業)	平成18年12月1日	岡 部 智 子	眼科医師
					平成18年12月1日	松本光代	産婦人科医師
					平成19年1月1日	駒ヶ嶺 正英	心臓血管外科医師
					平成19年1月1日	神 山 明 美	小児科レジデント

行事等紹介



「医師対象治験研修会」開催







臨床研究部長(治験管理室長) 小松 達司

平成18年11月22日17:00より、当院大会議室において「医師対象治験研修会」を開催いたしました。東埼玉病院 川井充副院長、機構本部水野宏一治験専門職を講師にお招きし、院長を初め研修医まで、52名参加しました。

優れた医薬品や医療機器をいち早く我が国に導入し、高い水準の医療を患者さんに提供するためには、有効性・ 安全性を調べるための臨床試験(治験)が必要です。外来待合いのプラズマテレビでも、治験に関する情報を流し ておりますので、ご覧になった方もたくさんいらっしゃると思います。当院も属しています国立病院機構は、治験 等、医療に関する調査研究を積極的に行い、我が国の医療の質の向上に寄与することが、責務の一つとされており ます。当院でも、多くの患者さんにご協力をいただきまして、今後も積極的に治験を実施したいと考えております。

しかし、これまで、治験に関わることが少なかった医師は、治験に関する知識を習得する機会がほとんどなく、 また、外部で行われている治験研修会に参加することは、多忙な日常業務の中では困難と思われます。

そこで、今回の院内研修会は、多くの医 師にとって治験に関する知識の習得、治験 を実施する意義を再確認するよい機会とな ったと思います。

新しい薬は、医療従事者、製薬メーカー の力だけではなく、みなさんのご協力があ って初めて誕生します。当院は、病で苦し む方々の元へ、最先端の医療を一日でも早 く届けたいと思っています。今後とも治験 にご協力をお願い致します。







院内感染対策講習会







小児科医師 小林 慈典

当院では院内感染防止のためにさまざまな取り組みを行っています。その一環として平成18年12月1日(月)に 横浜市立大学医学部臨床検査部準教授の満田年宏先生をお招きして、当院大会議室で院内感染対策講習会を開催し ました。講演のタイトルは「医療感染対策 ~これまで vs これから~」で、医師、看護師をはじめとした多数の病 院スタッフが参加しました。

講演は病院スタッフへの院内感染に関する問題形式のアンケート、スタッフの手指消毒実践など院内感染対策の 基礎知識および基本手技の再確認を行う参加型講演から始まりました。次に今年大流行したノロウイルスをはじめ とする消化管感染ウイルス、これからの季節に流行するインフルエンザウイルスの院内感染防止のための対策、さ らにはメチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA)、多剤耐性緑膿菌などの薬剤耐性菌の現状と抗菌薬の適正使用に よる耐性菌出現の防止など最新の内容を含むものであり、当院の感染対策の現状に即した講演内容でした。講演後 も各職場の問題に直結した質問が多数あり、大盛況のうちに終了しました。我々は今回の講演を通して最新の知識 を得るとともに、院内感染対策の重要さを痛感しました。

近年医療を取り巻く環境は大きく変化し、医療従事者にとって院内感染予防は重大な課題です。院内感染対策に ついて医師・看護師をはじめとして病院の全スタッフが正しい知識をもち、それぞれの職場で最善を尽くすことは

患者様に提供する医療の向上に寄与します。当 院では医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師が Infection Cotrol Team (ICT) を組織し、院内 サーベイランス、感染防止技術の指導などを実 施し院内感染の防止に取り組んでいます。今後 も患者様に質の良い医療を提供する為に病院を あげて感染対策に取り組んでいく方針です。





行事等紹介



クリスマスキャンドルサービス









平成18年12月21日(木) 18:30~ 横浜医療センター附属看護学校学生1年生~3年生 が病棟へキャンドルサービスに伺いました。

1年牛

準備は大変だった けど、患者様に喜ば れて、やってよかっ たな、と思いました。 3学年がこうやっ て、交流することが できたのも良かった です。

2年生

1年生ががんばっ てくれて、キャンド ルサービスをするこ とができました。み んなでできたこと が、とてもうれしい です。

3年生

やっぱり、キャンド ルサービスやってよ かったって思います。 自分たちが実習中 だったので、1・2 年生ががんばって準 備してくれたおかげ です。



患者様へのプレゼント



「クリスマスの集い」開催される







泌尿器科部長 本田 直康

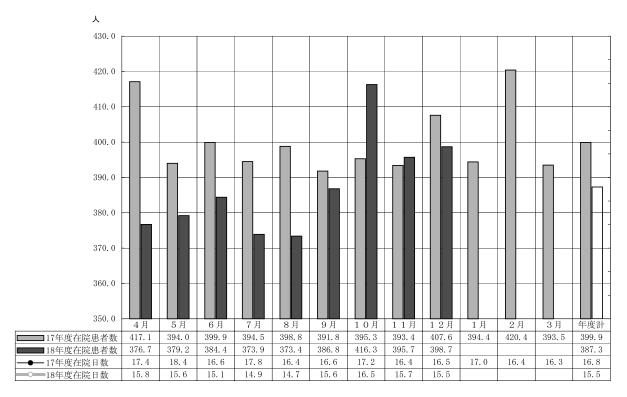
12月22日午後、医療サービス推進委員会主催による「クリスマスの集い」が、大会議室において開催されました。 今回はボイラー室の和田副技士長の手品と看護学生(1年生)によるコンサートの二部構成で行われました。和田 副技士長の手品、話術は、玄人はだしの域で、参加された皆が思わず引き込まれてしまいました。また、練習も無 しで院長先生に手品を披露させてしまうところなど拍手喝采でした。引き続き、看護学生1年生全員によるコーラ スや、楽器の演奏によるコンサートが行われました。曲目は、「ジングルベル」や「赤鼻のトナカイ」といったク リスマスにちなんだ曲や、「星に願いを」「小さな世界」「見上げてごらん夜の星を」といったとても親しみのある 良い選曲でした。1年生達のチームワークは完璧で、コーラス、演奏とも大変上手なもので、参加された入院患者 様も一緒になって楽しそうに歌っておられました。患者様の、大きな声で歌う姿や笑顔を拝見していますと、そこ には薬や手術だけではない、「治癒力」の存在を感じずにはいられませんでした。やはり笑顔は最大の薬です。こ のようなわけで、1時間半の「クリスマスの集い」は、大盛況のうちにあっという間に閉会いたしました。最後に和 田さん、看護学生1年生にそれぞれ委員長の宇治原統括診療部長より感謝状が贈られました。最後になりますが、 色々下準備をされた医療サービス推進委員会の皆様に感謝いたします。また色々な特技を持っておられる職員の皆 様、次回は是非ご参加ください。



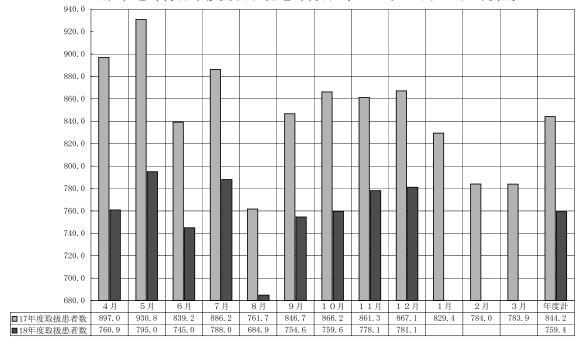


患者数の動向 ~1日平均~

入院患者数年度別月別比較(H18年12月31日現在)



△ 外来患者数年度別月別患者数(H18年12月31日現在)



編集後記

2007年新年明けましておめでとうございます。

2006年を振り返ると、DPCの導入、病棟での処方のオーダリングの追加、また現在進捗している看護学校の建替えなど色々なことが起きました。 2007年は、長年職員が熱望していた病院の建替えが承認され実質今年から動きだします。

職員一同一丸となりこのイベントを成功させましょう。

業務班長 阿部 秀喜

横浜医療センター 外来診療担当医 独立行政法人 国立病院機構

平成19年1月1日~

5A #= *1 -=							十成19年1月1日~
診療科·暗	重日	月	火	水	木	金	備 考
総合内科・	初診	第1-3-5週消化器、 2-4週循環器		松浦 宏之	関口 章子	泉二 恭輔	△:午後1:00~2:00(受付時間) ▲:紹介状持参の方のみ
内		高木 佐知子	今井 えりか	須澤 直木	宇治原 誠(予約のみ)	注 宇治原 誠(予約のみ)	注 内科・金曜日(第2・3・4週のみ)
神経内	_	土井 宏	△高橋 竜哉	検査日	土井 宏	検査日	
呼吸器	: 科	椿原 基史	検査日	山川泰	検査日	椿原 基史	
消化器	科	交代医師	塚田 百合子	松島昭三	前出 幸子	小松 達司	■:午後の予約のみ //年環界対策事以来を
		異 藤緒	■小松 達司(肝) 岩出 和徳	羽村 公代 田中 直秀	■小松 達司 ▲田中 直秀]《循環器科新患当番医》 (月)第1·2[田中]·第3·4·5[岩出]
循 環 器	科	# 歴始 加藤 丈二	石田 州郷 ペースメーカー外来	四十 旦%	■四甲 但%	岩出 和徳	(火)田中・(水)岩出・(木)田中[岩出]・(金)巽
リウマチ・アレル	ギー科	泉二恭輔	検査日	検査日	■泉二 恭輔	■関口 章子](人)田中·(水)石田·(水)田中(石田)·(亜)共]
							 <火曜日>奇数週(小児心身症)磯崎・偶数日(女性心身症)
心療内	枓	検査日	磯崎 • 須田	検査日	武川 吉和	検査日	須田/<木曜日>(認知症鑑別・一般心身症)武川
业本 分由	4 4	立山 哲也	光 川 士和		T** 1.00 (m. 11. dags		※月~金:新島受付は10時まで受付けます。(要紹介状、1日2名の予約制)
精 神	科	須田 彩子	武川 吉和	立山 哲也	礒崎 仁太郎	武川 吉和	但し、当該医師以外の医師が診察いたします。詳細は精神科外来にお尋ねください。
			海河 古佳	∽★ 唱—	小壯兹曲	∽士 陧—	
小 児	科	鏑木 陽一 交代医師	渡辺 由佳 原 良紀	鏑木 陽一 石田 華	小林 慈典 平井 綾	鏑木 陽一 榎本 聡子	
		佐藤 靖郎	関戸 仁	松田 悟郎	○土井 卓子	◆高橋 俊毅	◆ : 完全予約制
外	科	交代医師	◎土井 卓子		◎田辺 美樹子	◆山本 俊郎	◎:乳腺外来(火•木)完全予約制
	_		◎田辺 美樹子				1
呼吸器外	利					坂本 和裕	ご紹介については外来日以外でも随時受け付けておりますの
「丁ツスカボクト	114					山仲 一輝	で、直接ご連絡ください。
		国府 秀俊	日塔 寛昇	国府 秀俊	日塔 寛昇	日塔 寛昇	
整形外	. 科	村瀬 知男	国府 秀俊	村上 恭平	村瀬 知男	村瀬 知男	(受付時間)初診・予約外再診とも 8:30~10:00
" ''		村上 恭平	新美 裕太	篠田 圭介	新美 裕太	篠田 圭介	W 7 46 0 1.
形成外	£d	古湖 郑		口克猫 书	※三谷 秀俊	古湖 锐	※予約のみ ロ:手術日のため午前のみ
775 P.X. 21	17		▲ 六件医師	□高瀬 税 竹本 安範	高瀬 税	高瀬 税 藤津 和彦	
脳神経タ	小 科	急患のみ (手術日)	▲ 交代医師 ※(脳ドック)	17 年 女 戦 ※(脳ドック)	急患のみ (手術日)	市川 輝夫	▲:第1·3·5週(火)岡田 富 第2·4週(火)宮原 宏輔
MEI 17* 中エ ソ	1 14	(TM101)	- 小(mal(ソフ)	A (Mall ソフ)	(子門目)	III	第2-4週(火) 西原 公輔 ※詳細はPM1:00~5:00の間に地域医療連携室までお問い合わせください
心臓血管	外科	東館 雅文	手術日	検査日	盆子原 幸宏	東館 雅文	THE STATE OF STATE OF COURSE OF STATE O
		坪井 廣美	松井 矢寿恵	坪井 廣美	坪井 廣美	坪井 廣美	
皮 膚	科	松井 矢寿恵	百瀬 葉子	松井 矢寿恵	百瀬 葉子	松井 矢寿恵	1
		百瀬 葉子		-		百瀬 葉子	
泌 尿 器	科	本田 直康	本田 直康	手術日	奥野 紀彦	本田 直康	
産婦人科	婦	中村 秋彦	外村 光康	中村 秋彦	乗杉 輝彦	永田 順子	
	産	永田 順子	松本 光代	外村 光康	※乗杉 輝彦	中村 秋彦	※ 木曜日の産科は新患、急患のみ
眼	科	清水 康平	清水康平	清水 康平	清水 康平	手術日	(受付) 初診・予約外再診とも 月~木曜日 8:30~10:00
	_	岡部 智子	岡部 智子 山田 昌宏	岡部 智子	岡部 智子	山田 昌宏	新患・急患のみとなります。金曜日 8:30~9:30
耳鼻咽叶	侯 科	山田 昌宏 交代医師	山田 昌宏	手術日	交代医師	山田 昌宏	1
		栗原 須生美	中山 優子	日下部 きよ子		中山 優子	 ※注①月曜日 8:30~11:00【完全予約制】
放射線	科		中山 後丁 ※注②	(甲状腺外来)		※注②	※注②火・金曜日13:30~15:00【予約は内線4307まで】
L				※注③			※注③診察日は放射線科にお問い合わせ下さい。
# 1 com	腔外科———	塩入 重彰	塩入 重彰	工作口	塩入 重彰	塩入 重彰	新島は、火・木曜日の午前8:30~11:00まで。 再診(完全予約制)。
歯科口腔外類		丸山 貴子	丸山 貴子	——— 手術日 子	丸山 貴子	丸山貴子(午前のみ)	新患(紹介状又は、診療情報提供書を持参して下さい)。【可能な限り】 詳細については歯科口腔外科部長にお問い合わせください。
	小児 明	発達(福山)第2週 第4週	予約外来(渡辺)	喘息(石田)	乳児検診	循環器(鏑木) ※第3以外	
専門外来(午後のみ)		アレルギー・感染・免 疫(小林)	腎(伊藤)※第一週	予防接種(交代医師)	(交代医師)	予防接種(交代医師)	
		喘息(鏑木)	喘息(鏑木)	予約外来(能本)		神経(武下)※第3の み	
		予防接種(アレルキーの み)(交代医師)	発達(小林)			· ·	
	外	横浜市乳がん検 診 ※注④	癌化学療法外来	癌化学療法外来	癌化学療法外来		※注④横浜市乳癌検診の受付:14:00~16:00乳癌検診
	科			スキンケア外来			1
				※第2-4週			※注⑤担当医:[外科土井·皮膚科坪井]
	女性 診療	※注⑤					女性のための総合診療をめざす外来です。 産婦人科受診希望の方は直接産婦人科外来を受診してください。女性
	外来	~ <u>~</u>					外来では内診などは行っておりません。乳腺疾患は火・木曜日の乳腺外
	産婦	母親教室			母乳外来		来で女性医師が対応します。全人的に対応し、必要があれば心療内科 を含め複数科の女性医師が連携します。
	耳	補聴器外来	アレルギー外来		補聴器外来	学童外来	
	鼻	腫瘍外来	ヘースメーカ外来		III MONTHE / L	1 王バホ	
	循環		×=スメ=ハット※ ※注⑦				※注⑦ 第1·3·5週[加藤] 第2週[異] 第4週[桜林]
	-					·	1

初 診 受 付:平日8:30~11:00

世間 3.30で11:00 但し、整形外科、眼科、放射線科は上表備考のとおり 再診(予約外)受付:平日8:30~11:00 但し、整形外科、眼科、放射線科は上表備考のとおり 体 診 日:土曜・日曜日・祝日・12月29日~1月3日

お知らせ 色つき部分が変更箇所となります。ご確認の上受診ください。

※急患は随時受け付けます。来院前に病院にご連絡下さい。(TEL 045-851-2621) ※紹介状又は、診療情報提供書をお持ちの方は、外来受付窓口にご提示下さい。

地域医療連携室(TEL 045-853-2331)

(写真右)

戸塚は江戸時代には東海道の宿場として栄えており、旅籠の数も小田原に次ぐ 所で江戸より10里、小田原まで10里と中間点にあるため、江戸を朝立ちして戸 塚で泊まり翌朝小田原に向かって出発するので大変賑わった町でした。

又、現在の戸塚消防署とスルガ銀行戸塚支店の間は大商店が立ち並び、旅籠 や遊廓等が点在していました。

